

後拾遺 何國ともかひの白ねはしらね共雪降毎に思ひ社やれ

〔倭訓栞前編六〕かひがね 古今集にみゆ、甲斐が嶺也、又かひのまら嶺ともいへり、後拾遺集にみ

ゆ

〔類聚名物考 地理十五〕甲斐白嶺 かひのまらね

甲斐國 かひがねに同じ所なり、國府より北西の方に在り、

〔裏見寒話三山河〕白根が嶽 西方

富士につゞきての高山、初夏迄も白雪ありて、名のらずして見ゆる甲州一の大山、名所和歌多し、所跡の下に記す、名月過よりは嶺に雪見へ、四月末迄あり、

〔甲斐名勝志四巨麻郡〕白嶺 かひがねとも、かひのしらねとも云、名所なり、此山四時雪あり、駿河の國大井川の源は、此山中より出る、一説にかひがねは、一山の名にあらず、すべて甲斐の高山をいふといへり、○下

〔甲斐國志三十三〕巨麻郡西河内領

一白峯シラチ 此山本州第一ノ高山ニシテ、西方ノ鎮タリ、國風ニ所詠ノ甲斐ガ根是ニシテ、白根ノ夕

照ハ八景ノ一ナリ、南北ヘ連ナリテ三峯アリ、其北ノ方最モ高キ者ヲ指シテ、今專ラ白峯ト稱ス、中間嶺ヲ隔テ、武川筋蘆倉村ニ屬セリ、本村ヨリ絶頂ニ至ル凡拾里許、正ク西ニ當レリ、若シ其

絶巔ニ攀登セント欲スル者ハ、必ズ盛暑ノ時ヲ以テ候トス、再宿シテ應サニ還ルベシ、相傳日神ヲ祀ル、○中

中峯ヲ間ノ嶽、或ハ中ノ嶽ト稱ス、此峯下ニ、五月ニ至リテ雪漸ク融テ、鳥ノ形ヲナス所アリ、土人見テ農候トス、故ニ農鳥山トモ呼ブ、其南ヲ別當代ト云、皆一脈ノ別峯ニシテ、總テ白峯ナリ、奈良田、湯島諸村ノ西ヘ連亘シテ、信州伊奈郡ニ界セリ、又駿遠ノ間ニ出ル、大井川

モ此山ノ西南ヨリ發スト云、